

東和大学 工学部 経営工学科

本学の経営工学科は、産業工学コースと経営管理コースの2コースに分れています。前者は生産部門の合理化・効率化を目標とした生産管理技術者の養成を目的としており、後者は企業の経営管理者および営業マンの養成を目的としています。両コースの共通専門と各専門科目は次のようになっています。

〔共通専門科目〕

経営工学概論、経営管理総論、原価計算、マーケティング、労働科学、計画数学、統計解析、オペレーションズ・リサーチ、オフィスオートメーション、情報理論、システム工学、電子計算機概論、マイクロコンピュータ基礎電子計算機実習Ⅰ、Ⅱ

〔産業工学コース専門科目〕

生産管理、工程管理、作業研究、工業標準化、品質管理、人間工学、経営工学実験Ⅰ、Ⅱ、図学、設計製図、工場実習

〔経営管理コース専門科目〕

販売管理、財務管理、流通論、商品計画、組織行動論、事務分析、簿記概論、経営計算、労務管理、経営工学演習Ⅰ、Ⅱ

産業工学コースが理系的であるのに対して経営管理コースは文系の色彩の濃い科目構成になっていますが、ど

ちらのコースの学生も他方のコースの科目を自由に選択できるというユニークな方法を採用して、柔軟性に富む工場管理者、合理性に富む経営管理者の育成をめざしているわけです。また両コースとも現在の情報社会に適応するように、情報関係の科目とパソコンおよび汎用コンピュータの理論と実習に重点をおいています。特に電子計算機実習Ⅱでは実習Ⅰで習得した技術にもとづいて、オペレーションズ・リサーチの問題をコンピュータを用いて解決することを行なっています。またパソコンの時間には、NEC9800VM2の実習と並行してワープロとしての訓練も行なって、OAの実践に役立てています。

経営工学科としては次の4つの部門に分れて研究を行なっています。

1. 統計, OR
2. 経営診断, IE
3. マーケティング, 経営戦略
4. 人間工学, 産業心理学

過去において、経営診断による企業指導と地域の市場調査によるスーパー等の販売店の指導の実績もっています。多変量解析の主成分分析の手法を用いて全国の女子短大生の意識調査を行なって、新聞紙上をにぎわせたこともあります。これからもこの分野での研究に努力してゆくつもりです。
(加治景夫)

一橋大学 商学部

一橋大学商学部でのOR教育は、主に管理工学部門が担当しています。専門科目の学科目数でいうとOR関連は4つあり、それらの実質的内容は、それぞれ、OR入門、企業の経済学モデル、ストキャスティックOR、ディターミニスティックORとなっています。1、2年生に対しての統計・確率論（の一部）も管理工学部門が担当しています。

講義内容は、だいたい標準的なものと考えてよいと思いますが、商学部ということで、受講者の数学的背景がそう強力でないということがあります。（数学的なレベルでいうと、たとえばストキャスティックORは、シュeldon・ロスのIntroduction to Probability Modelsを

テキストとして使う程度です。）したがって、厳密な理論としてのORではなく、科学的意思決定プロセスとしてのORが強調されています。特に近年では、企業や社会の情報化・ネットワーク化という観点も取り入れられ技術と人の関係、情報と意思決定、社会情報化の進展と意思決定の関連など現代的で、必ずしも数学的ではない話題もOR関係の講義の一部として議論しています。

学部のゼミでは、V. Chvatalの（銀色の表紙の）テキストを使ってLPの勉強などもしますが、それに限らず経営戦略、組織論、社会哲学など、広範囲なテーマがとりあげられています。多様性の例として、管理工学部門に属するゼミにおけるここ2年間の卒業研究テーマを